

第51回全私研に参加して 東京父母懇役員 岸本 卓

2021年7月31日～8月1日

第51回 全国私学夏期研究集会 SAGA うれしのオンライン全私研に参加してきました。

全私研は今年度で51回目を迎えますが第2回阿蘇全私研において東京の父母8名が参加したことが東京父母懇の発足したきっかけとなります。2泊3日泊まりがけで、先生方や他校の保護者との交流や学習で大きな刺激を受ける大会です。

私も過去の大会に5から6回参加し、和光高校のレポートを分科会で提出し学習をしてきました。

今回は九州の佐賀県での開催でしたが、コロナ禍で従来の3日間の日程が2日間となり、全日程がオンラインで行われました。

7月31日の1日目の第1部は主催県の私教連、全国父母懇私学助

成をすすめる会連絡会代表の挨拶の後、昨年度のコロナ禍の中で行われた私教連あゆみ等を詳しく報告する基調報告が行われました。

第2部は記念公演として藤田千代子氏（ペシャワール会 PMS 支援室室長、PMS 総委員補佐）による



演題「アフガニスタンに命の水を～中村医師、PMS とともに」の講演が行われました。講演会で2019年12月4日に襲撃を受けて亡くなった中村医師の足跡紹介がビデオや写真を通して詳しくありました。以前、テレビや新聞を見て知っていた中村医師の活動をより詳しく知ることができました。現地の人たちの気持ちを大切にしながら現地の人立ちが自分たちが自分たちでできることを支える活動を構築していったことなど、中村医師の強い精神に改めて感動しました。

全体集会の後、全国の父母懇の代表者が集まる全国父母懇代表者会議が17:00～18:30までオンラインで行われました。各県の父母懇代表から各県の父母懇活動の報告がありました。そして、昨年度は北海道大会が中止となった今年度の全国父母懇・すすめる会交流集会を行うかどうか提案と意見交換がありました。結論としては、今年度の全国父母懇は10月9日（土）か10日（日）のどちらかの日に愛知県が中心となりオンラインで行うこと。分科会は全国の世話人県が担当すること等が決まり、大枠は全国私教連が提案することで纏まりました。9月に全国父母懇代表者会議が行われます。

8月1日の2日目。27ある分科会の中で私は「学費問題・私学助成」の分科会に参加しました。分科会には午前午後9本のレポートが全国各県から提出されレポートを中心に意見交換がされました。その中の一つのレポートは「コロナ禍でも諦めない 今年度の私学助成署名の取り組み」と題したレポートでした。大東学園のレポートについては後日、大東学園から報告をお願いしたいと思います。大東学園のレポートもとても印象的だったのですが、それ以外のレポートでは兵庫県の高校が昨年度、PTAにさほど仕事のない「生徒指導委員会」を「私学助成委員会」にしないかとの提案がでて承認され地域での署名活動等を行っているという報告でした。地域のお祭りに参加して署名ももらう活動を始めたとのことでした。愛知県からは昨年秋に例年行ってきた愛知県内の生徒保護者教職員が多数集まって開催するオータムフェスティバルをコロナ禍の中で徹底したソーシャルディスタンスや消毒等の準備を行い多数の県会



議員や大村知事を招いて成功裡に終わったという報告がありました。高校生たちは自分たちの文化祭がコロナ禍で中止となる中でもフェスティバルには参加したとのことでした。愛知県の大村知事は生徒たちの盛大なパフォーマンスや訴えを見聞きして自身ツイッターで感動したことを報告したとのことでした。コロナ禍の中でも最大限の感染予防対策をしながら、多くの高校生や保護者が参加したことに写真を皆らが感心しました。

新潟県からの報告では、1校が一昨年度始めた、施設設備費を授業料に含めて保護者の年間学費負担を減らし始めたところ、昨年度はそれに習う私立高校が多く出始めているとのことでした。

年度当初に支払い保護者に大きな負担となっている施設設備費を授業料に含めていくことは他の県でも、東京都でも多くの私立高校が行っていることを、後日東京都の私立高校の学費データを見ても知ることができました。

愛知県からの報告では、入学金も各市町村から補助を受ける制度ができ始めているとのこと。東京のお隣の埼玉県でも年収により入学金の助成制度ができているとのことでした。

早く、東京も入学金にも助成金がつき、保護者負担がなくなればと思いました。

最後に、愛知県お若手の先生からの報告も印象的でした。ある若手の先生は普段はあまり話さず活動的ではなかったのですが、若手教員の集まる私学助成の勉強会にわかりやすい資料を熱心に語ってくれたとのこと。それに触発され、自分自身も私学助成運動のレポートを作成し発表したとのことでした。愛知県ではそうした若手の先生方の活動が行われていることを自分自身の職場にも照らしてもっと奮起せねばと思いました。この分科会には父母懇に加盟し



ていない私立高校の先生方が参加されていましたが、今後そうした先生方と交流できればと思いました。今回の全私研で学んだことを今後、東京の私学助成運動に活かしていきたいと思いました。

今回の全私研は完全オンラインでした。現地に宿泊すると、自分の学校の保護者同士、先生方、そして東京の方々や全国の方々と直接お話ができる良い機会となってきました。来年度は現地で開催ができるようになればと願って病みません。